

北光

第 133 号

平成17年11月22日



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉱山専門学校
秋田大学鉱山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

目 次

巻 頭 言	平 田 次 男	1
会 長 便 り	菊 地 芳 朗	2
「平成17年度第 1 回北光会支部長会」が開催される		4
秋田大学関西セミナー開催される		5
創立100周年記念事業企画委員会活動報告		7
先輩から学生へ		9
学 生 の 声		11
秋田の観光スポット30で鉱業博物館が第 1 位		16
北から南から -支部・クラス会だより-		17
「北光寮」名称存続に関するアンケート結果		27
母校だより		29
事務局から		30
訃 報		31
編 集 後 記		32

表紙写真：最近の北光寮。

撮影：千田恵吾技術専門職員（GH3）

“北光会、最近の動向”

菊 地 芳 朗 (GS34)

今回は6月の北光会総会後の活動について申し述べたいと思います。

経営協議会など学校の会議は4回行われました。その都度、北光会本部において拡大事務局会議がもたれ、種々の諸懸案事項について討議が行われました。

各支部総会や地域北光会に先生方とともに出席し、北光会の現状を説明申し上げるとともに親しく会談してきました。中でも台湾北光会に出席したことについては、先の「北光」第132号で詳しく述べられております。この時、台湾北光会会長の張來銓さんより台湾での北光会総会開催が提案されました。特に張さんからは、秋田鉾山専門学校時代の卒業生は高齢になられているので出来るだけ早く行っていただきたいとのことでした。お話の内容は、私にも良く理解できました。台湾北光会からは創立50周年記念事業や70周年記念事業でご協力をいただいております。また多くの会員が台湾を訪問しお世話になっております。平成19年度総会を台湾で行うべく、この度の支部長会で討議し了承を得ました。来年3月の理事会、6月の総会です承を得て、是非実現したいと取り組んでいるところであります。

東京セミナーは、7回を数えました。毎回、多くの企業の方や同窓生が参加されております。この様に同窓会が東京サテライトで活躍していることが、後でも述べますが文部科学省から高い評価をいただいております。

8月には初めて大阪で関西セミナーを行いました。土木環境工学科の松富英夫先生から「インド洋津波と今後の課題」と題しご講演をいただきました。関西地方はご存じのように1995年

阪神・淡路大震災のあったところで、関心の持たれるテーマでした。そのためか同窓会員以外の多くの企業や学会の方々が参加されました。現在のように多様化した社会において、このようなセミナーをどう宣伝し、参加者を集めるかは至難のことです。ご講演いただきました諸先生と担当されました支部の方々に申し上げます。

さて、母校は昨年からの法人化に伴い、中期目標・中期計画を作成し、その達成のために努力しているところであります。そして各年次に文部科学省に業務の実績に関する報告書を提出し、評価を受けることになっております。9月に平成16年度の評価結果が公表されました。母校は全体としては、「おおむね計画通り進んでいる」又は「計画通り進んでいる」の評価を受けましたが、「博士課程において、学生収容定員の充足率が85%に満たされていない」と評価を受けました。全国89大学法人の中、このような評価を受けたのは11法人でした。工学資源学研究科の博士前期課程（修士課程）の充足率は常に100%に達しております。しかし、後期課程（博士課程）は16年度で71%、17年度は65%であります。このことは外部からの評価は元より文部科学省から交付される運営交付金にも大きな影響を与えます。この充足率を満たすことは学部・研究科の緊急な課題であります。川上研究科長（学部長）から博士後期課程に社会人入学生を推薦していただくよう北光会に依頼がありましたので宜しくお願いいたします。また、評価の項目事項に「東京サテライトを設置して同窓会支部等と連携強化を図るとともに、…」とあり、前にも述べましたように東京セミナー

などに北光会が支援していることが評価されたものと考えております。

10月15日支部長会が行われました。報告事項や議事内容については議事録を参照していただくこととして、学部の創立100周年記念事業については、北光会も参画した学部との合同企画委員会で検討を重ねて来ましたが、先に述べました博士後期課程の充足率等のこともあり「学術支援基金」と「鉱業博物館の拡充」を大きな柱として行くことにしました。来年の総会で了承を得た上で直ちに募金活動が出来るよう学部側と協議して行きたいと考えております。

翌16日、秋田大学全学同窓会連絡協議会の発足式が行われました。これは秋田大学の四つの同窓会（工学資源学部、教育文化学部、医学部及び医療技術短期大学部）が同窓会相互の交流及び連携並びに親睦を深めるために創られたものです。

17日は10月に行われたオープンキャンパスで、展示や実演で努力した各学科の研究室に贈る「頑張ったで賞」の授賞式があり、表彰状と副賞を授与しました。若い学生の皆様が頑張っている姿に接し嬉しく思いました。

同日、環境物質工学科では、日本技術者認定機構（JABEE）から認定を受けるための審査が行われておりました。担当の中田真一先生より、「審査員から『JABEE受審について社会や同窓生からどのような要請や協力、評価があるか』と聞かれており説明していただきたい」との依頼がありました。JABEE受審については、「北光」に幾度か紹介されております。同窓会がJABEE認定に向け全面的に協力していることと、この度JABEEがワシントン協定に加盟したことで国際的にも認知されたことは、海外の活動に好ましいことなどからJABEE認定の実現は同窓会としても大事なことである旨申し述べました。JABEE受審のため卒業生にアン

ケートがあるとは聞いておりましたが、同窓会が直接聞かれるとは思っておりませんでした。

今後も各学科において、JABEE認定に向けて努力していただきたいと思いますし、そのために北光会も協力していきたいと考えております。

先の「会長便り」で法人化に伴い「母校が変わります。北光会も変わります」と述べましたが、この様なところからも変わっていることを実感した次第です。

今後とも会員皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

北光会は皆様の会費で維持されております。